

# 富士の民話 あれこれ

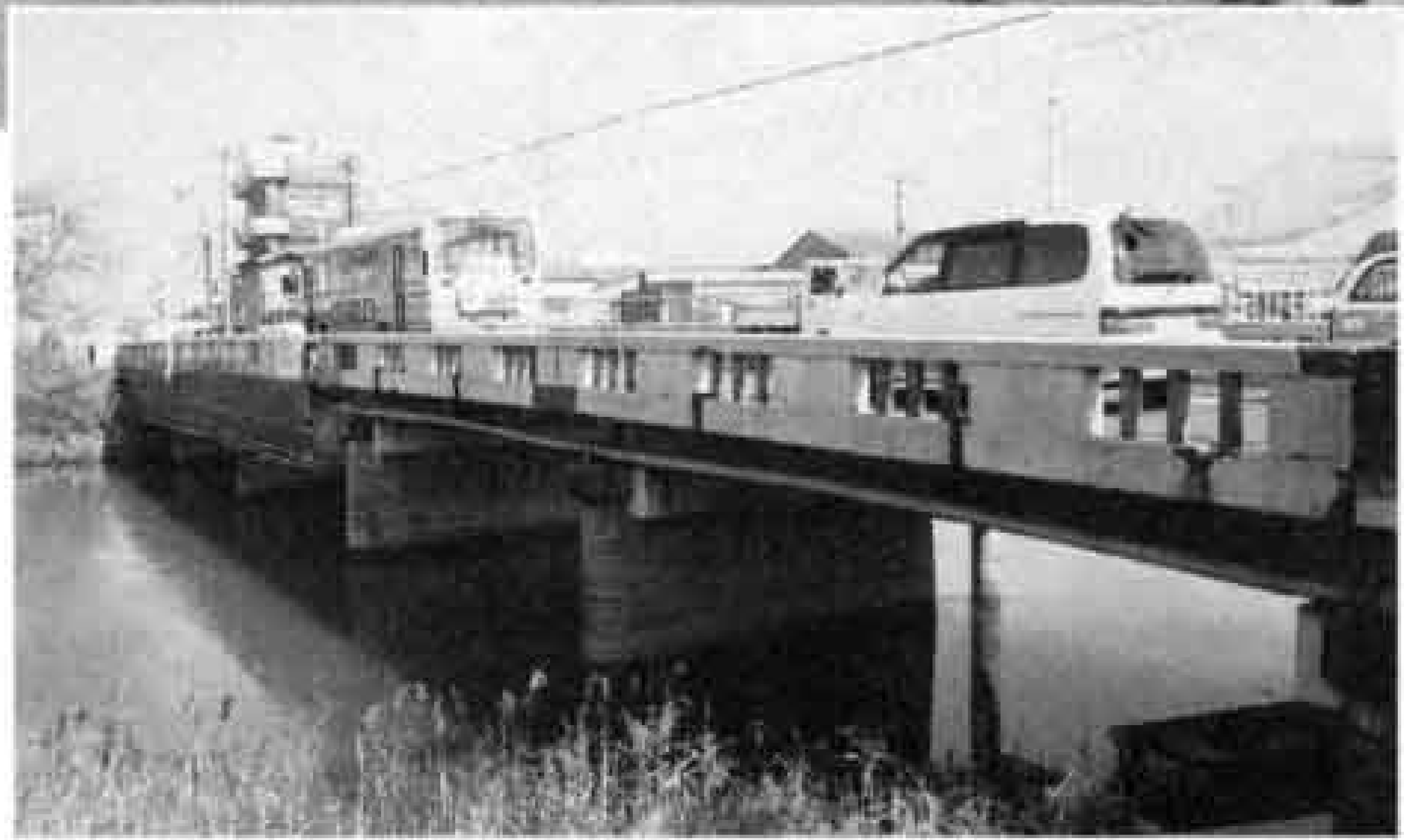
## 馬車鉄道

明治から大正時代、鈴川駅（現在の吉原駅）から富士宮市の大宮町に「馬車鉄道」が通っていました。  
今回は、当時の人々の貴重な交通機関の一つだった「馬車鉄道」を紹介します。

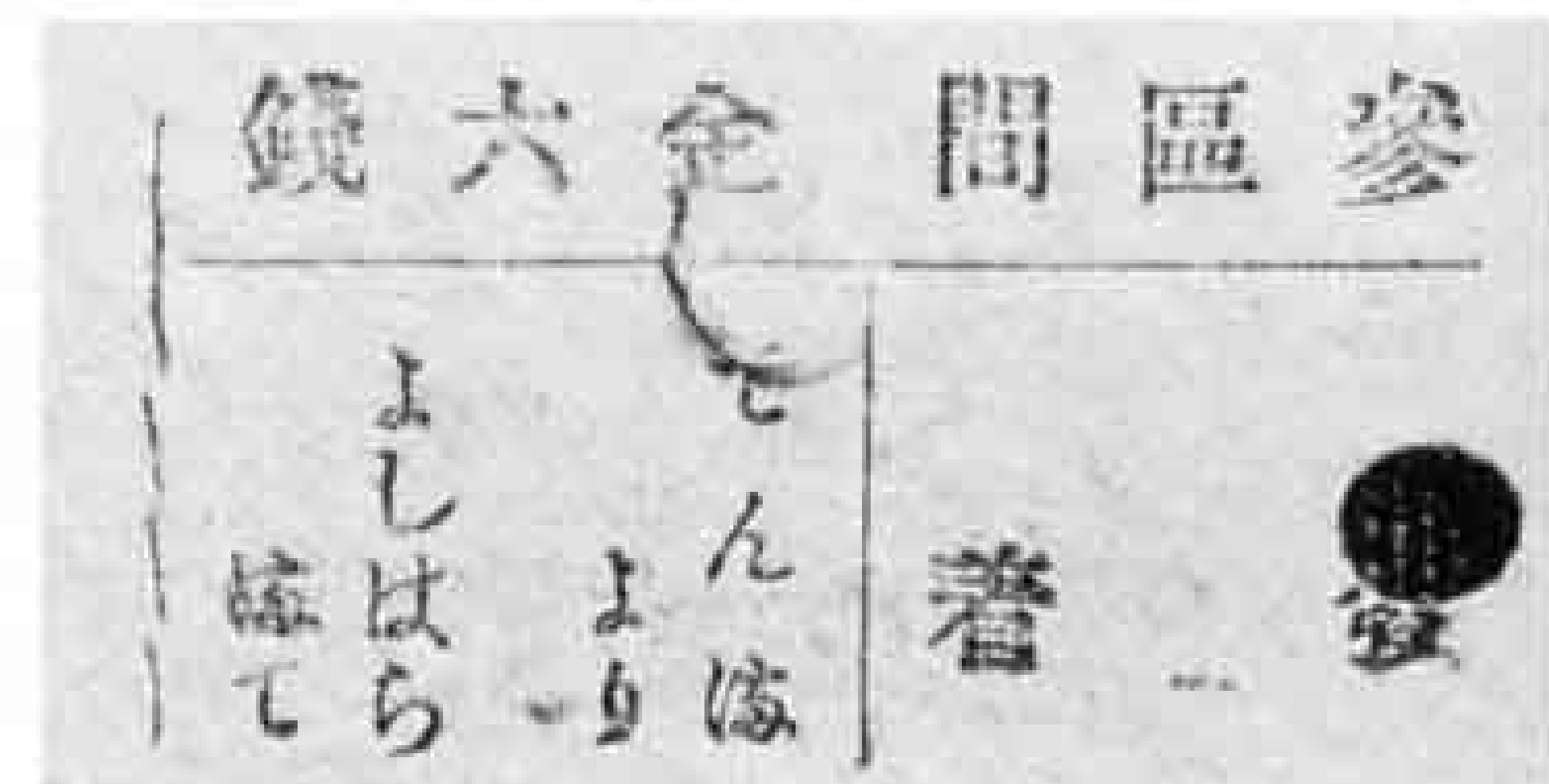
◀河合橋の上を歩く馬車鉄道（明治三十五年）



◀現在の河合橋



鈴川駅を起点として吉原、伝法、入山瀬を経由して富士宮市大宮町に至る「馬車鉄道」が開通したのは、東海道線鈴川駅が開通した翌年の明治二十三年でした。「馬車鉄道」は道路に敷いた線路の上を馬車で人や荷物を運ぶ、当時の最新式交通機関でした。人なら十人くらいが乗れる箱型の車を馬が引く乗り物で、その馬を手綱で操る人を「別当」と呼びました。そして、ところどころに「すれ合い」という馬車が相互に行き交うために四本の線路を敷いたところがあり、手を挙げて合図をすれば、途中でどこでもとめて乗り降りができる便利な乗り物でした。



▲「馬車鉄道」の切符。天間～吉原間を3区間とし、運賃は6銭

また、客車だけではなく、郵便物などを運ぶ郵便車もあり、物資の運搬にも利用されていました。その利益は、明治三十八年の半期だけで旅客、貨物を合わせて千七百七十五円という記録が残っています。一区間二銭ほどの当時は、大変需要があったことがうかがえます。しかし、当時の人々の重要な交通機関であった馬車鉄道も、富士身延鉄道の開通など、文明の進歩とともに大正時代の末に廃止されました。

当時「馬車鉄道」はみんなの「足」で、だれもが利用していました。今のライトバンより少し大きくて、十人五人の人が乗れましたね。長い腰かけが両側にあって、そこに座れない人はその間に立っていました。乗り心地は、悪くありませんね。馬車の速さは人が軽く走るくらいでしたから、馬の隣を走ったことがありますよ（笑）。



吉原駅北口でお店を営む  
稲垣 恒男さん  
（鈴川町一）

### こちら編集室

ふじ広報室の番組を担当して1年半。自分では今まであまり緊張していないつもりだったが、市民の人から「最近リラックスして上手になった」と言われ、昔のVTRを恐る恐る見てみた。そこにはド緊張している自分の姿があり、ショックを受けた。

我が家の娘も番組を見るとテレビに向かって「パパ、パパ」と指をさすようになった。しかし、違う番組を見ても「パパ、パパ」と叫んでいる。それはお笑い芸人のつぶやき〇〇-さんだった。子供は正直と言うが、ダブルショックを受けている今日このごろなのだ。

人口 236,205人  
男 117,689人 女 118,516人  
世帯 76,474世帯 (2月1日現在)  
編集・発行 富士市総務部広報広聴課  
静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123  
ホームページ <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/>

